



平成26年2月14日 第3巻(第16号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F
災害支援チーム TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

***** TOPICS *****

1. 東日本大震災支援 石巻派遣職員を緊急募集!!

4月以降に石巻に赴任できる医療ソーシャルワーカーを募集しております。

詳細はホームページの募集要項をご覧ください。

2. 「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。活動継続の為に寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえご覧ください！！

※詳細は、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。



*** 目次 ***

1. 協力員として参加して
2. 石巻での活動の様子(概要から抜粋)
3. 石巻での活動の様子(FaceBook から引用)
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 第3回 災害支援チーム会議 議事録
6. 事務所より

*** 1. 協力員として参加して ***

活動期間:2013年11月13日~11月15日

山本 美穂(千葉県 亀田リハビリテーション病院)

感想:

私は、今回初めて現地協力員として災害復興支援に携わらせて頂きました。活動内容としては、各仮設住宅の集会所で行われていた復興公営住宅の申込に来られる方やまだ来られていない方のお宅を一軒一軒訪問し、震災から3年が経つ中での生活課題に目を向け、エリア主任の方々と協力して介入をしていきました。

震災当初は大学を卒業した直後であり、病院内の先輩方や各地から多くのSW方々が現地で活動されていることは知っていても、自分が行ったところで何が出来るのか、足手まといになるだけだろうと思い、行動には移せませんでした。SWになって3年目、今回のこの機会に現地に行くことが出来、本当に良かったです。被災地だからといって特別なことをするのではなく、個人に目を向け、その方の為に何が出来るか、何をすべきかを考えて行動をしていくと解りました。

日頃の業務で長期間行くことは難しいと思いますが、全国のSWが顔つなぎをし、今現在求められていることは何かを引き継ぎ、支援のバトンをつないでいければと思います。

活動を検討している皆さんへ一言:

震災から月日が経過していきますが、その時その時で生活課題は変化していくと思います。SWの力が必要な状況だと思います。日々の業務で忙しいと思いますが、支援のバトンを繋いでいけたらと思います。

活動期間:2013年12月16日~12月18日

佐藤 美樹(東京都 大久野病院)

感想:

震災が起きてからもう少して3年が経とうとしている中で、初めて石巻を訪れました。

活動のなかで、車で石巻周辺を見て回り、石巻駅付近と少し移動した先とは状況が違い、震災後そのままになっている小学校や海の近くを見て、メディアに取り上げられることが少なくなっている、決して復興を遂げている訳ではないということを目の当たりにし、ギャップを感じました。

現地で生活をする方々のなかにも、津波ですべてなくしてしまった方だけではなく、自分は被害が少ないという方もいる中で、被害が少ないことへの罪悪感やニーズへの対応を考えることができました。また、震災当初のニーズとは変わり、そのニーズの変化に対応するためには、本人たちの話を伺い、思いを受け止めることも重要なのだと感じました。

実際に自分が現地で見たこと、感じたことを、今後活動する際にも忘れないようにし、ニーズの変化、住民の思いなどに目を向けていければと思います。

活動を検討している皆さんへ一言:

メディアでの情報と、実際に自分の目で見て、肌で空気を感じる事では、捉え方に大きく差があると思います。時間が許す様ならば石巻市周辺の様子を見ていただきたいと思います。

活動期間:2013年12月16日~12月18日

鈴木 望(東京都 大久野病院)

感想:

今回初めて参加させて頂きました。実際に自分で現地に降り立ち、見て聞いて感じる事から得るものの大きさを実感しています。

震災当初からもうすぐ3年が経とうとしています。その3年が早いのか長いのか、これだけ復興しているのかそれともまだまだなのか、同じ石巻でも市内と市外地の景観の違いに驚かされ、考えさせられました。また、現地で共に活動させていただくことにより、急性介入が必要な時期は過ぎていて、生活・地域再建の時期なのであるという事を強く感じました。訪問活動を行ない、地域の中を歩く道中で実際の生活の様子も垣間見ることができました。三日間活動させて頂き感じたことは「生きることは生活をしていくこと」だという事。そして、自分の仕事は生活者を支援していく仕事であることを、図らずも再確認させられた三日間でした。自分がSWとして仕事を続けていく上でも、とても芯となる大切なことを確認できたと思っています。

活動を検討している皆さんへ一言:

「行けない理由はたくさんある」との、現地の方の一言が心に残っています。

「行くと見える事」が沢山あります。

*** 2. 石巻での活動の様子（概要から抜粋） ***

*** 1/30 久保木 美由紀（現地担当）

男の遊ぼう会：参加者 8 名。スタッフ 5 名。カレーライス作りとカルタ取りを行った。仕事で調理をしていた方を中心に手際よく進められる。初参加者も多かったが、調理を通してコミュニケーションを図られていた。カルタ取りも最初は遠慮気味だったが、みなさん、楽しまれていたように感じる。社協みなし仮設のエリア主任も見学に来てくれ、今後、対象の方がいれば声掛けをしてもらおうよう依頼する。来月の予定も参加者で話し合ってもらい、「たら汁づくり」に決定する。買い出し等の準備も参加者より手が挙がったため依頼する事とした。

*** 1/31 久保木 美由紀（現地担当）

ケース対応：高齢夫婦世帯。妻の入院先へ訪問。手術は予定通りに終了。入院期間は未定。別居のこどもも面会に来ており、不安なこと、困っている事は相談出来ているとの事。妻の入院期間中、夫の様子確認を継続する。

*** 2/6 久保木 美由紀（現地担当）

月例報告：①生活困窮されている方への経済的、就労支援が多かった。その背景には障害や精神不安定等様々な理由があり、その背景を理解し、生活訓練を含めた支援が必要であると感じた。来年度の事業の1つとして提案する。②ひきこもりの親の会について→参加者固定しつつあるが、増加傾向にない現状を報告。保健師ミーティングへ参加し、親の会の具体的な内容を話す。日程は3月中で調整。

*** 2/12 久保木 美由紀（現地担当）

ひきこもり家族グループ：雪道の影響で参加者0名であった。しかし、10年前から市内で不登校の親の会をされている方より2名のご家族を紹介頂くと共に、その方の活動、石巻市内の引きこもり支援団体がネットワークで支援していく必要性について話し合う。引きこもりの方への支援を検討している団体があり、社会参加の場が広がっていることが分かった。

大森第3団地仮設住宅傾斜に係る説明会：今回は修繕に伴う仮設間の移動であるので、基本的に修繕期間だけの移動、短期間（約10日間）となる。短期間であること理由、居住しながらの修繕は可能か、応急処置でどうにかならなか等の質問が上がっていた。その背景にコミュニティが分かれることによりコミュニケーションが変化することによる精神的不安定への心配、引越に関する手続きの煩雑さ、健康被害への補償等が見受けられた。行政としては、該当世帯に来週から2週間かけて意向調査を個別に行う。この個別訪問時に住民の方の不安が多く出てくる可能性は高い。市よりその調査の際にMSWの同行を求められ、SWへの期待を感じられた。

*** 3.石巻での活動の様子 (FaceBook から引用) ***

*** 1/28 畑中良子 (現地担当)

復興公営住宅の事前登録が昨年11月29日で終了し、今月中にその結果を公表するとなっていた。個人への結果通知はまだのようだが、新聞で発表があった。一番人気の地域は12.13倍という倍率。中里1丁目だそう。門脇、湊東、湊北、浜松町の4カ所では申し込みがなかった部屋もあった。2月1日から28日まで市役所などで変更登録を受け付ける。仮設のささえあい拠点センターでも4日間ではあるが、変更登録を受け付ける。希望者が上回った場合、3月下旬から抽選を実施する。私たちがフォローした方が変更を希望されるかの意向調査が再度必要となる。事前登録の時点で約1,000世帯が整備を予定している戸数を上回っている。これをどのように解消するのかは現在では未定。さて、どんな結果が出てくるのか？

*** 2/5 畑中良子 (現地担当)

石巻市内の2月1日時点での応急仮設の数は133団地、7,122戸。内、入居しているのは6,485戸、14,713人。その中の一つである大森大森第3団地(216戸)で、一部の住宅が傾いていることが発表された。

県の調査によると、住宅6棟48戸が約0.5~1度傾き、仮設住宅に適用される県の基準(約0.4度)を上回った。めまいや頭痛など健康への影響が懸念されるレベルという。ここはかつて農地で水路があった。軟弱な地盤で傾斜の原因になったとみられる。ここに住んでいる住民の方からの訴えで傾きが分かったとされている。設置主体の県と管理する市は、入居者に他の仮設住宅に一時移転してもらい、改修する方針だ。ここにもまた移動が加わる。

大森団地では傾きが原因となるが、今後、仮設が建っている用地の契約が更新できずにそこに「住む」方たちの移動が起きてくる。今のコミュニティが崩壊され、新たなコミュニティへ入っていく事になる方がいるだろう。刻一刻と時間が経過し、住民さんの気持ちの変化がどう表れてくるのか？

*** 2/10 畑中良子 (現地担当)

週末からの大雪の影響が出ている。石巻では観測史上2番目との事。仮設大橋団地では各棟の間の通路に雪が50センチ以上積もったそう。雪かき作業も大変だが、その雪の置き場に困ったり、エアコンの室外機が雪に覆われて調子が悪くなったりした。この気温の中で、暖房が使えないのはかなり厳しい状況だ。また、仮設折浜団地は朝から午後7時すぎまで停電。貯水タンクの電動ポンプも停止し、水道も止まったそう。電気も水道もストップ。かなり不安だったろう。市内の幼稚園や小、中、高の73校が休校になった。明日は祝日で、お仕事が休みの方も多いかもしいが、放射冷却の影響で路面の凍結に気を付けよう。

*** 4. 第3回災害支援チーム会議録 ***

第3回 災害支援チーム会議 議事録

(石巻支援プロジェクト)

日時:2014年1月12日(日)10:00~12:00

場所:日本医療社会福祉協会 会議室

出席者:笹岡・西田・山田・葛田・梅崎・富永・畑中・武山・東・佐原・中本・中川・金子

欠席者:相原、長谷川、久保木、佐藤

<日本医療社会福祉協会副会長 中本氏出席>

1. 現地状況

報告事項

- ① 復興住宅の説明会 総依頼件数:86 ケース 総 SW 数:延べ 174 名市役所の依頼が直前であったにもかかわらず、多数の SW を配置できたことで市役所からの信頼が増した。しかし、説明会への参加人数が見込みよりも下回ったことで協力員からの感想では、充分関われなかったことへの不全感を表明する人も存在した。結果として 86 ケースに対応できたことで、SW の専門的なスキルに対する評価につながった。

説明会同席者の報告のまとめ

- ・市職員と説明会に参加した人の意思の疎通がスムーズになるように支援したことで、よりSWの存在意義を確認した。
- ・復興住宅より仮設に居住する事を望む声もあった。
<復興住宅(公営)では家賃、共用部の費用が必要となる>
- ・県外の避難先で開かれた説明会場では参加者が少ないところがあった。
- ・市職員に対してMSWの存在をアピールできた。
- ・協力員にとって十分な支援ができないとか、役立っているか否かを実感できないとかで不全感がのこることもあるが、協力員という立場はその状況を受入れることが必要。

同席支援活動のまとめと今後の目標

- ・支援した 86 ケース対しての事例傾向分析や評価など、軽々には結論はだせないことを確認した。
- ・今後の支援活動で予想されることとして、情報が行き届かないケースや SW の更なる支援が必要になるケースが増えることなどを確認することの重要性を認識した。
- ・現段階としては現地の状況と復興住宅への転居の見通し、対応できたケース等についてまとめることの必要性が指摘された。

石巻市生活再建支援課とのミーティング

現在 週 1 回朝のミーティングに出席:年末から今年度の現地責任者

今後の予定 週 2 回朝のミーティングに出席:月曜日は今年度の現地責任者

金曜日は次年度の現地責任者

- ② 宿舎投石事件後の対応、状況について

- ・防犯ベル設置、セキュリティ会社への依頼
- ・最近は特に大きな問題は起きていない。
- ・多くの人が入り出している、ということが大切
- ・宿泊はなるべくホテルを取らずにサポートセンターに泊まってもらうほうがよい。

- ③ 協力員の姿勢の課題について

協力員の支援姿勢に関する具体的な例について報告があった。

状況報告を受けて以下のことを確認した

- ・指示命令系統を再度検討する必要あり。
- ・現地担当者に過度の負担を掛けないこと。
- ・「事故」が発生した場合はリアルタイムの報告が責任者間で必要であることを再確認し、現在の体制が機能していたことが了知された。
- ・協力員が問題を引き起こした場合等は、リアルタイムの報告が必要か否かの判断は統括責任者が行う。

④ 現地職員の募集について

最低3カ月。できれば半年でも勤務可能な人を緊急募集する。ホームページにも募集広告する。

⑤ RCIからのケース

2014/1/10 現在 継続ケース 71 ケース。次年度の現地責任者が継続して対応。

⑥ その他

審議事項

① オリエンテーション資料、宿舎使用方法配布資料の承認

オリエンテーション資料は再訪でも毎回配布する。

② 協力員の受け入れ方法について

* 受入日を月曜、水曜の2回とする[2014年度から]

土日祝日の支援活動はなし(前日の宿舎入りはOK)。

* 活動日を平日3日間以上とする

・自費で参加する場合であっても、現地責任者から分担された活動以外の独自の活動をする予定がある場合は事前に報告してもらい、統括責任者、現地責任者で受け入れ可否を検討する。

2. 2013年度1月～3月、2014年度事業方針

①健康推進課

- ・健康調査のフォローケースへの援助 → 対象数は不明。
- ・引きこもりのグループワーク → 継続。
- ・男のあそぼう会の開催 → 継続

②生活再建支援課

- ・個別援助困難ケースへの援助

担当者からの依頼内容

仮設住宅から復興住宅への移行の中で高齢者、障害者をはじめとする社会的に弱い人々が残る。この人達が次のステップに進むためには、専門職の支援が必要で、そこを期待している。 → このケースがどの程度の量と質になるのか未定。

③ RCIとの協働 2014年度未定 → 1月にRCI責任者と笹岡統括が協議予定

④ 河南の保健師からの依頼ケースへの援助

⑤ その他

3. 予算執行状況について(中川事務局長より)

資料参照。

事務局長から報告あり。

書籍販売(パトンI)はAmazonで広報しているが、1月で撤退する。

4. 災害支援チームより

2月の活動希望(木～土)があったが、週末にかかっていたために断った。

年間を通して活動計画を実行されている県からの協力員については、今後の検討事項となった。

5. ニュースについて

適当な頁数を検討することが必要という結論となった。

6. 災害対策本Ⅲの発行について

次回の議題とする

7. その他

- ・茨城大会:シンポジウムは2時間半の予定。
基調講演で映画監督を招聘予定。
- ・湊のアパート:3月末までに契約解除
次年度の現地責任者用宿舎確保予定。
- ・協力員の受け入れ:現地駐在者の人事異動があるため、3月下旬から引き継ぎが完了する
4月中旬までは受け入れ休止。
詳細な日程は統括責任者、現地責任者、事務所とで協議する。
- ・次回:プロジェクト会議 3月9日(日)10時~12時 協会会議室

*** 5. 災害支援チームからのお知らせ ***

【1. 協力員募集】

*** 現 地

- 1). 現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。原則として中3日以上、平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

但し、初回参加の方は活動日数を3日以上でご参加お願い致します。

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

*** 事務所

引き続き募集しております。平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に1回でも構いませんので、ご協力をお願い致します。

【2. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

バトンⅠとバトンⅡとを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。送

料表でご確認下さい。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタン I : URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

ボタン II : URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

【3.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL ***

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【4.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。現在はサポートセンターを活動拠点としております。当時の様子を知っていただく貴重な資料として、YouTubeにアップしておりますので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL ***

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

*** 5. 事務所より ***

1. 東日本大震災支援 石巻派遣職員を緊急募集!!

4月以降に石巻に赴任できる医療ソーシャルワーカーを募集しております。詳細はホームページの募集要項をご覧ください。

爆弾低気圧の影響で各地で大雪の被害が出ています。ニュースで東北の太平洋岸は雪が例年少ないと聞きびっくり致しました。徳島もひさかたぶりの積雪です。1センチの積雪で10キロの移動に2時間近くかかってしまう様子です。慣れないことが起こると対応に苦慮してしまいます。皆様もくれぐれもお気を付け下さい。

(編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同)

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 26年 2月 14日 第 3 卷 16 号
作 成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会